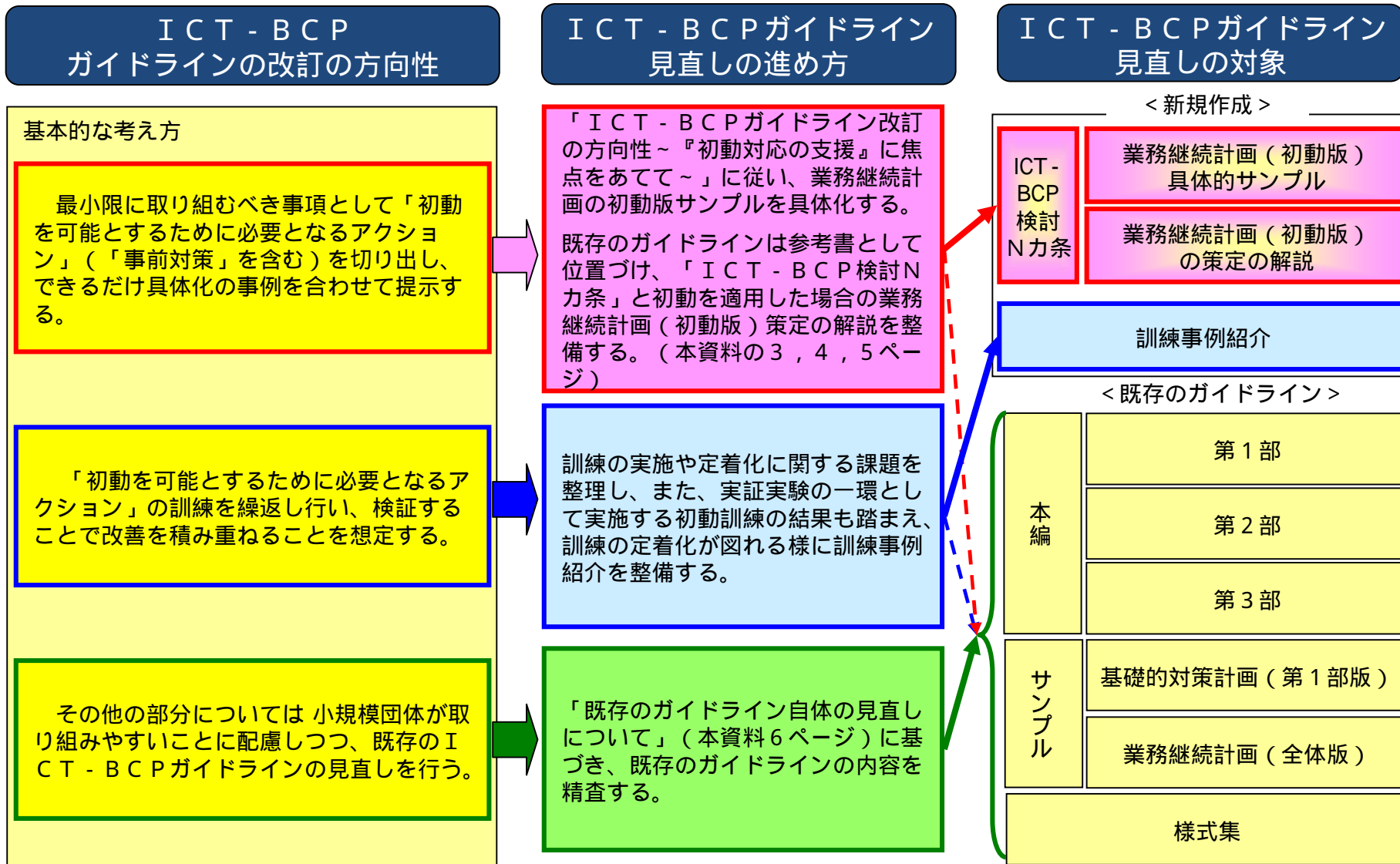


# ICT - BCPガイドライン見直し の全体像

2012年9月27日

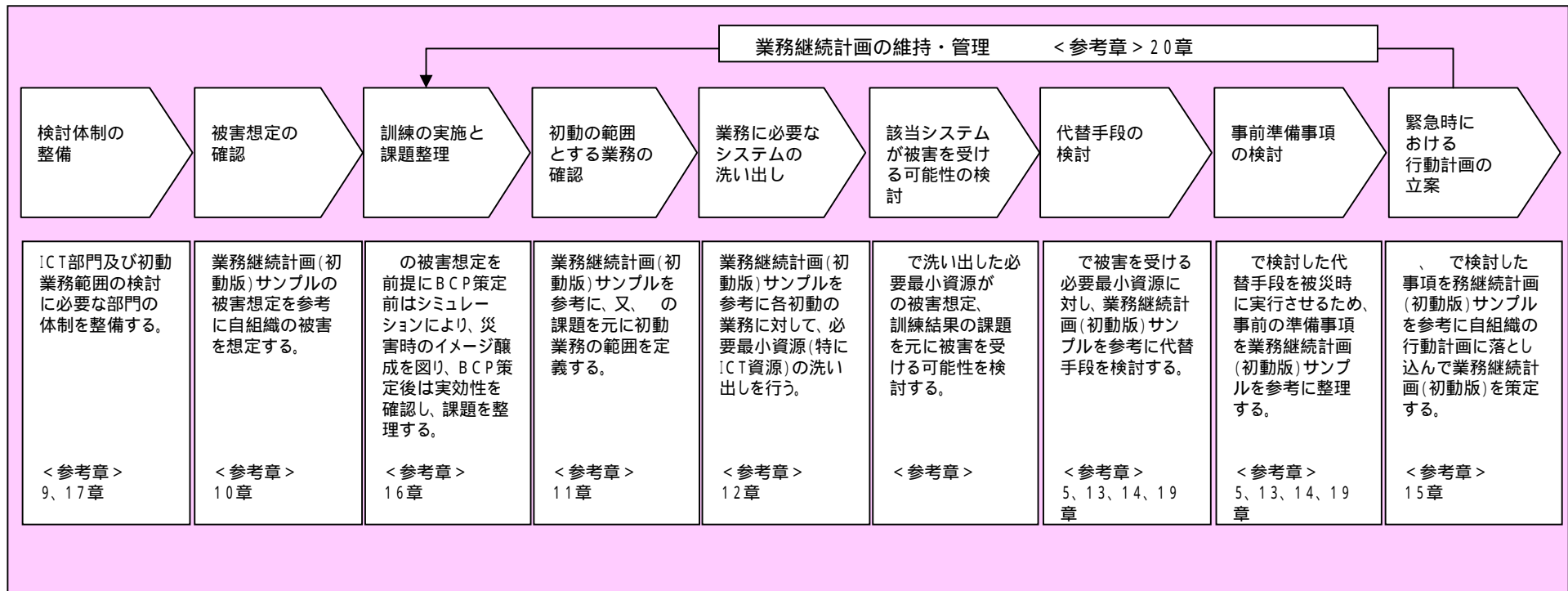
# ICT - BCPガイドライン見直しの全体像

- 既存のICT - BCPガイドラインはこれを参考にしている地方公共団体への影響も勘案し内容を大きくは修正しないこととし、初動、訓練に焦点を当てた補足資料を追加する方向で整備する。



# 初動対応に該当する要素の抽出

- ・ 現行のガイドラインから、初動対応に該当する要素を抽出すると概ね以下のとおりとなる。



- 前頁の要素をもとに、首長がICT - BCPの必要性を直感的に理解でき、策定指示できるような「ICT - BCP 検討Nカ条」（初動対応を可能とするために検討すべき項目）をまとめる。
- 「ICT - BCP 検討Nカ条」に盛り込むべき視点（例）
  1. 被災シナリオの想定。
  2. 初動業務の確定。
  3. 初動業務に必要な情報資産（システム・データ）の洗い出し。
  4. 情報資産（システム・データ）の被害想定。
  5. 事前準備と代替手段の検討。
  6. 訓練の企画・実施。
  7. 初動版業務継続計画の策定・見直し。

# 業務継続計画（初動版）サンプルのイメージ

- 初動に焦点をあてて、より具体的なICT部門の業務継続計画のサンプルを新規に作成し、提供する。

## アウトプット目次構成（例）

### ICT部門の業務継続計画（初動版） サンプル

- 業務継続計画の趣旨・基本方針
  - 業務継続計画の趣旨
  - 基本方針
- 運用体制と役割
- 被害想定
- 重要システム
- リソースの現状(脆弱性)と代替の有無
- 被害を受ける可能性と事前対策計画
- 平常時の業務継続力の維持・向上の体制・計画
  - 運用体制
  - 訓練計画
- 緊急時対応・復旧計画
  - 緊急時対応体制
  - 緊急時における行動計画
  - 参照文書リスト
  - 緊急連絡リスト
  - 被害チェックリスト
- 資料

## まとめるポイント

資料4「ICT部門における業務継続計画初動検討 被災パターン」を元に想定した被害を記載する。

初動の範囲とした業務範囲（災害直後の広報～情報システムの点検・再稼動）を重要業務として選定し、当該業務で活用又は有効と思われるシステム（ネットワークを含む。）を重要システムとする。  
資料5「初動検討ワークシート」のB列を記載する。

「3．被災想定」のパターンに対し、「4．重要システム」の現在の災害対策状況から被害の有無を評価し、保全、代替の対策、そのために必要な事前対策事項を記載する。  
資料5「初動検討ワークシートのD列を整理して記載する。

初動の範囲とした業務においてICT部門がとるべき行動計画を被災想定のパターンを考慮し、具体的に記載する。  
「6．被害を受ける可能性と事前対策計画」を前提に発災後の行動計画を記載する。

有事の際に利用するのは8章と9章になるため、末尾、又は先頭に集約し、切り離し可能な状態にしておく（例では末尾に設定）。

# 既存のガイドライン自体の見直しについて(たたき台)



- 既存のガイドラインの構成要素は大きくは修正しない。
  - 既存のガイドラインの構成要素は必要な検討事項であり、また、既存のガイドラインに従って現在ICT-BCPの策定を検討している自治体への混乱も考慮し、構成要素の大きな変更はしないこととする。
- ステップという考え方にとらわれない柔軟な利用を可能とする。
  - 各地方公共団体において、災害対応の準備は様々であることから、既存のガイドラインにあるステップという考え方にとらわれず、各地方公共団体の準備段階に応じて、柔軟に利用できるようにする。
  - ICT-BCPの検討の進め方として、初動フェーズ(非常時優先業務の早期立ち上げ) 復旧フェーズ(通常業務の復旧)の順番に拡充していくことの重要性を補足追記する。
- ICT-BCPガイドラインの位置付けについて検討する。
  - ICT-BCPと地域防災計画等との関係を明らかにすることができれば、メリットが大きいのではないか。
- その他
  - ICT技術の動向変化や東日本大震災の経験を踏まえ、初版策定当初の内容に修正の必要が認められる部分があれば、研究会に諮る等し、必要に応じた修正を行う。
  - 業務継続計画(初動版)の策定に伴い、「第1部ステップ6」=「初動の行動計画の立案」等の紛らわしい表現を修正する。